

早稲田大学 政治経済学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	昨年に比べるとかなり易化し、一昨年までの水準に戻った感がある。また、昨年は珍しく出題されなかった写真・肖像問題が復活した。全く出題されなかった。地図問題は一昨年・昨年に続き今年も出なかった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	明・清～中国現代 (史料問題)	史料問題の形式はとっているが、その出典を問うような設問もなく、特別な対策は必要ない。A - 1の安南は陳朝。2は高麗が朝鮮(朝鮮王国・李氏朝鮮)か迷うところだが、史料文の中に「一昨年、元の都を攻め取り」とあるので、1392年に成立する朝鮮王国は不適。7 - イの北平は北京の当時の名称。8 - ハの冀東防共自治政府は1935年に成立した。冀察政務委員会と並んでいわゆる日本の華北工作の一環で成立したもの。記述問題は易しい。	標準
	古代ギリシア・ローマ・ 中世西欧	正誤判定は意外に易しい。5は正解が二つある。6 - イのユスティニアヌスが滅ぼしたゲルマン王国は頻出。そして西ゴートは南部を奪われたが滅ぼされてはいない。この国は滅ぼしたのはウマイヤ朝である。B - 1のクセルクセス1世は以前の教科書には出ていたが、現行の教科書からは消えている。当然のことながら山川の用語集にも出ていない。記述式なので知らなければどうにもならない。2のキケロも主著『国家論』をとばしてあるので難しい。アントニウスの配下に殺害されたという史実を知っていれば楽に答えられる。	標準 (一部難)
	宗教改革・価格革命	昨年の大問も宗教史だった。肖像画だけからの判断だとbのルターはいいが、cのカール5世は難しい。しかし、文中の空欄からカール5世と簡単にわかるので易しい。4 - ロのザビエルはイタリア人ではなくスペイン人が正しい。5の年代配列は、最初からハかホが正解とわかる。あとはd(アウグスブルクの宗教和議)かb(贖宥状販売開始)かという判断だけで答えは自明である。7は一見すると厄介そうだが、この種の問題へのマニュアル通りの対処で、先頭はb or a、最後はc or dと択一で絞ると正解できる。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
	19世紀のヨーロッパ	2 - ロ、ティルジット条約で自由市となったのはベルリンではなくダンツィヒ。3 - ハは「農奴制が大量に創出された」が誤り。農奴は小作人となって資本主義的大農経営であるグーツヘルシャフトが成立した。4 - ホはカヴールではなくマツィーニが正しい。さらにローマ共和国は1849年の出来事。5 - ハはブダペストではなくブラハが正しいがこれは難しい。	やや難
	「短い20世紀」	A - 1の「ベルリンの壁」崩壊の引き金となった東独市民の出国許可を行った国ハンガリーは難しいが、他は基礎的事項。	易

〔総合コメント〕

このところ難易度の年によるブレが大きい。来年は今年並みか、または昨年並みか。それはあけてみなければわからない。ということは、準備する側は難しい場合を想定せざるを得ない。昨年・一昨年のレベルを前提に学習することを心がけたい。今年も地図が出なかったが、来年はそろそろ危ないと思った方がいい。昨年と今年に連続して見られる特徴として日本史の出題がある。昨年の壬辰・丁酉の倭乱と加藤清正、薩摩藩の琉球支配、今年の冀東防共政府がその例である。日本史も受験しなければならない受験生(国公立組の一部)にとっては助かる傾向である。例年出されていた難しいというより面倒な年代配列も要注意である。ただ、この年代配列もある程度はマニュアル通りの対処が可能である。類似問題の数をこなして短時間で対応できるようにしておきたい。どちらにしても幅広い知識が問われることにはかわりはない。高校教科書は徹底的に読み込み、用語集は項目だけではなく説明文の隅々までチェックして微細事項の出題に備えたい。